

1~5面 YWCAのセーフ・スペース

6~7面 普天間 元・保育園職員が見た
米軍ヘリ落下物事故

こころ 響き合う 居場所をつくる

6

JUNE
2018

No.744

The Young Women's Christian Association YWCA

(第32総会期主題聖句)
平和を実現する人々は幸いです
—マタイによる福音書5章9節—
(日本YWCAの使命(ミッション))
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

(日本YWCAのビジョン)
地域で女性達が主体的に活動することを通して、
以下の社会をめざします。
(1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
(2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
(3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
(4) 多世代・多文化で多様な背景を
持つ人びとを尊重する社会

www.ywca.or.jp



Yカフェ パーシヨ
(横浜YWCA)



Safe Space



まきは保育園
(東京YWCA)



強いこと、うまくできること、早いこと、
皆と同じことが良しとされるこの世界で、
かけがえない「あなた」として
安心できる居場所でありたい。
全国各地のYWCAで展開している「セーフ・スペース」。
今回は、2つの事業に光を当てました。

エンパワーするNGO



2017年度 寄付報告

2017年4月1日~2018年3月31日

活動へのご賛同、ありがとうございます。

- ピースメーカーズ募金 1,952,932円
(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成、「日韓ユースカンファレンス」クラウドファンディング含む)
- 災害時支援募金 772,687円
(国内外の災害被災者支援、パレスチナ支援、熊本/南アジア洪水被災者支援含む)
- 東日本大震災被災者支援募金 3,952,395円
- オリーブの木キャンペーン募金 849,000円
- 賛助費 1,226,000円
- 世界YWCA総会派遣募金 6,000円

2018年度もよろしくお願いたします

※当法人へのご寄付は、税額控除の対象となります。

※メールまたは振替用紙通信欄で次の情報をお知らせください。領収書を発行します。

- ①振込日 ②金額 ③お名前 ④ご住所 ⑤寄付項目
- ⑥お名前アルファベット(オリーブの木キャンペーン募金へのご寄付のみ)

※ご希望の寄付項目を必ずご指定ください。

※年間3,000円以上のご寄付で、機関紙をお送りいたします。

銀行への振込

振込先 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 1198743
(口座名義) 公益財団法人日本YWCA
コウエキザイダンホウジンニホンワイドブリュウシーエー

郵便振替 00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本YWCA

他行からの振込 ゆうちょ銀行 〇一〇支店(ゼロイチキョウ)
当座預金 23723
(口座名義) 公益財団法人日本YWCA
ザイ) ニホンワイドブリュウシーエー

初夏の
Yだより

釧路YWCAの

ルバーブジャム



北海道の厳しい冬が終わると、春一番に芽ぶき、旬の初夏まで元気よく伸びて、輝く季節の到来を告げる野菜、ルバーブ。釧路YWCAでは、5月下旬に皆でルバーブジャムを作るのが20年来の伝統です。このルバーブは、宣教師の方から譲り受けた株を、会員の庭で大切にそだて殖やしたものです。茎がみずみずしく酸味もしっかりとした初夏のルバーブは、控えめの砂糖でコトコトと1時間ほど煮ると、きれいなピンク色のフルーティーで甘酸っぱいジャムになるのです。数が限られているため広く販売はできませんが、初夏の釧路YWCAにお出かけの際にはぜひ一緒に、ご賞味ください。



ご協力ありがとうございます

賛助費
金剛静恵
匿名

ピースメーカーズ募金
(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)

斎藤明子 犬伏邦明
清塚典子 熊沢義壽

0422キリスト教合同プログラム
実行委員会
女子聖学院

横浜共立学園
ブル学院中学校高等学校
東洋英和女学院中・高部宗教委員会

中高YWCA顧問有志
公益財団法人名古屋YWCA
一般財団法人 広島YWCA
匿名

災害時支援募金
(国内外の災害被災者支援)

犬伏邦明
松山YWCA

(オリーブの木キャンペーン募金)
犬伏邦明 寺田有古
前川邦子 保前奈穂子
捜真女学校高等学校1年
美唄めぐみ幼稚園
大阪YWCA 大宮保育園
札幌YWCA

(熊本地震被災者支援募金)
東洋英和女学院宗教教育委員会
東日本大震災被災者支援募金

犬伏邦明 柴田幸子
リアンウオン
パパルプロジェクト実行委員会
女子聖学院

横浜共立学園
東洋英和女学院宗教教育委員会
東洋英和女学院中・高部宗教委員会

日本福音ルーテル大森教会・大森ルーテル幼稚園
日本バプテスト目白キリスト教会

札幌YWCA
釧路YWCA
松山YWCA
長崎YWCA

公益財団法人名古屋YWCA
公益財団法人京都YWCA

(2018年2月16日~4月15日現在)

在敬略

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 Fax.03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp
編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | お名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp 無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。

店長に聞く

あなたは大切な かけがえのない存在

パシーヨの朝は、スタッフが実習生一人ひとりに声をかけることから始まります。体調やコンディション、気持ちを確認して、できること、やりにくいこと、やりたいことを見定めて仕事の分担を決めます。

ここは「就労支援」ではなく「個別就労支援」。周囲からは理解されにくいけど、彼女たちはもがき苦しんでいます。それでも「なんとかしたい」と痛み、葛藤を抱えながら、ここへたどり着きました。その痛みと想いを受け止めます。

スタッフは、実習生一人ひとりと向き合っています。あなたは大切な存在。うまくいっても、うまくいなくても、どんなあなたもかけがえのない存在。どのような個性も全人格として受け入れます。そうして接すること

で心の壁が取り払われていきます。最初は自己肯定感がとても低い。今日は来ることができた、水の提供ができた……ひとつひとつ成功をみんなで喜びます。できたーよかったです！が少しずつ増えることで、やってみたいことも増える。出勤日も増える。可能性が広がっていくのです。

私自身、実習生と同じ痛みを経験して、家から出られなかった時期もあります。言葉にこそしませんが「痛みがわかるよ」と語りかけています。

スタッフも実習生たちに支えられています。彼女たちの素直な心に触れるたびに、襟を正されています。それに私はお皿を割るなど失敗ばかりしているので、彼女たちのサポー



ランチメニュー「タイのグリーンカレー」(600円)。本場の食材を使った本格派。第1・3週の月曜・水曜限定

Yカフェ パシーヨ

営業時間 月曜～金曜11時～16時
※ランチメニューは月曜・水曜限定

定休日 土曜・日曜・祝日
TEL 045-681-2903
住所 横浜市中区山下町225
横浜YWCA会館1階

アクセス JR根岸線「関内駅」
南口より徒歩6分

http://yokohama-ywca.jp/
programs/cafe/index.html



定期的にイベントを開催。フェイスブックなどで告知しています。写真は、親子で楽しめる恒例のお話会

場所のようです。クッションを抱えて眠る人、本を読んで過ごす人、スタッフと話をしている人……それぞれの過ごし方で、背負っていた心の重荷を置いて帰っていきます。「この雰囲気が好きなんだよ」と言うお客さんもいます。「雰囲気とはカフェから醸し出される空気のことなのではないかと思えます。ここでは、誰もが排除されず、自分のままでいられることが、きっと伝わっているのではないのでしょうか。」と、スタッフが語ってくれました。

**セーフ・スペースで
あり続ける**

「パシーヨ」とはエスペラント語で「二歩」を表す言葉です。社会参加の一步を踏み出す



料理上手な横浜YWCA会員の手作りクッキー。ドリンク(単品)に付いています



フェアトレードのコーヒー(1杯300円)。実習生が丁寧にハンドドリップしています。粉の販売もあるのでチェックして

うとする女性たちにとつてのセーフ・スペース、それはお客さんやボランティアスタッフにとつても同じようです。それぞれの歩みや方向は違っても、ここから新たな一步を踏み出していきます。

「実習生たちが次のステップに行くことに

なっても、彼女たちとの関係が切れない限り、セーフ・スペースとしての役割は終わりません。その後、もしも辛い思いをすることがあっても、ここでの経験や気持ちの糧にしたいための居場所となるよう活動しています」

編集部

YWCAの
セーフ・スペース

横浜
YWCA

Safe Space



Yカフェ パシーヨ

心の壁を取り払い お互いの個性を 受け入れあう

横浜中華街の近くにある、周囲の喧噪から離れた隠れ家のような「Yカフェ パシーヨ」。“生きづらさや働きづらさ”を抱える女性のための個別就労支援の場です。引きこもりがちだった女性たちの居場所となり、一步を踏み出すまでを支える人々の想いと取り組みを探りました。



多様な人が集まる 小さなコミュニティ

このカフェは、実習生として働く女性、ボランティアスタッフ、お客さん、多様な人が集う場所。

一步を踏み出すとする実習生が働きながら、緩やかに社会との接点を増やせる小さなコミュニティです。

「ここは失敗してもいい場所だよ」スタッフは実習生にそう伝えていきます。

パシーヨの実習生は、今まで社会経験を積む機会や、タイミングが合わなかったことから自信を持ちづらい環境にいたことが多くあります。ここでは、自分で決めた曜日に出勤できた、あいさつができた、目を合わせる事ができた、自分で休みの電話をかけた、といった一つひとつを「できた」と肯定して



パウンドケーキセット(500円)。しっとりとした優しい味わいです。選べるドリンク付き。種類は日替わり



四季折々の花が楽しめるガーデン。これからの季節はテラス席もオススメ

あなたのままで いてください

いきます。慣れない作業への理解やテンポには少し時間が必要であっても、失敗と成功を重ねて、できることが増えていきます。

彼女たちを温かく見守り、支えているのが、ボランティアスタッフです。若者からシニア層まで性格もバックグラウンドも多様なスタッフと関わることで、より一般社会に近い環境を経験します。スタッフとの関わりのおかげで褒められたこと、励まされたことが自信につながっていくようです。Aさんは、以前の実習先ではうまく馴染むことができませんでしたが、パシーヨでは実習延長を申し出たそうです。Bさんは「今まで生きてきた中で一番楽しい時間だ」と語ったといいます。

お客さんにとつても、パシーヨは大切な居

まきば保育園
の1日

一人ひとりの気持ちと育ちを大切に

保育園の1日は、朝7時、眠い目をこすりながら登園してくる子どもたちとともに始まり、夜8時、延長保育の子どもたちのお迎えで終わります。ここには、お絵かきの時間や体操の時間といった決められた時間割はありません。滑り台やブランコなどの既成遊具もありません。生活と自由な遊びの中にある子どもたちのやりたい気持ちと、一人ひとり違う育ちを大切にしているからです。子どもたちは自分が選んだ遊びを一日中、工夫したり、友だちと協力したりしながら思う存分遊びます。楽しい、やりたい、悔しい、泣きた



小さい子と大きい子がいっしょに遊ぶ

しょう。今年入園してきた3歳の男の子のことです。穏やかな日差しを受けて外でのお昼と同じテーブルには3人の友だち。話の輪に入ることなく、食べる手も止まっています。「今日のおかずおいしそうね。〇〇くんは何

い。子どもたちは遊びの中で自分の気持ちに気づき、思いを言葉にして伝えることができようになる。友だちにも自分と違う考えや気持ちがあることがわかっていきます。一緒に遊ぶ小さな友だちを思いやる気持ちも生まれます。どんな気持ちも、最後まで必ず耳を傾け、受け止めてくれる先生がいる安心感。そして、ケンカをしてもまた仲良く遊ぶきょうだいのような友だちがいる場所。「もう一つのおうち」のようなあなたな居場所で、子どもたちは時間をたっぷりかけて心を豊かに耕して

が好きなの？」と聞くと、脇から別の子が「大根が好きなんだよ！」まだ1カ月もたっていない間に、新しい友だちの好きなものを知り、教えてくれたのです。「大根が好きなの？」「うん」と男の子は小さな声で答えてくれました。そして好きな大根を口にし、相変わらず静かに座りながらも、3人のにぎやかな会話を聞いているように思えました。先生だけではなく、友だちも君のことを気にかけているよ。だから大丈夫、安心して。少しずつ少しずつあなたの歩幅で歩いていこうね。急がなくていいから。時間はたっぷりあるから……そう心の中で声をかけました。子ども一人ひとりに与えられているそれぞれ違った種。その種が自らに宿る力で育っていくけるよう、水やりをしていくのが私たちの役割だと考えています。子どもの今の姿を見極めながら、多すぎても少なすぎてもいけないその子のための水やりです。たっぷりと水



隠やかな青空の下、
園庭でいつもの友だちとお昼ごはん

を含んだ幹は、さらに大きく育っていくことでしょう。夏には木陰をつくり、秋には美しく色づき、冬には余分なものをそぎ落とし、春には再び芽吹く園庭にある大きな樹のように。これからも私たちは、未来を生きる子どもたちの人生最初のかげがえのない日々を、子どもたちと共に歩んでいきたいと思っています。
東京YWCAまきば保育園 園長
大澤千佳子

いきます。保育園にはときに、卒園した子どもたちが学校帰りに立ち寄ってその日あったことをホッと話す光景が見られます。お迎えの時間には、仕事を終えた保護者が日々抱えている重荷をそっと降ろす場面もあります。地域の子育て支援「たんぼほ広場」に参加する親子も遊びに来ます。園児だけでなく、子どもたちと親を取り囲む、余裕のない厳しい社会の中の、セーフ・スペースでもあるのです。

YWCAの
セーフ・スペース

Safe Space

東京
YWCA

まきば保育園

ありのままの 気持ちを受けとめ 共感しあう

東京の住宅街に、四季折々の姿を見せる豊かな木々に囲まれた「東京YWCAまきば保育園」があります。そこには自由でおおらかな子どもの世界が広がっています。子どもたちの幸せな居場所であるために何を大切にしているのでしょうか。



自由に、のびやかに

「せんせい！みてみて!!」「わたしのも！」泥だらけの手で差し出した箱には、ダンゴ虫とカナヘビ。春の訪れは、小さな虫との再会。子ども達が広い園庭へと飛び出していきます。いつせいに芽吹いた木々の下ではよちよち歩きの子どもたち。畑の傍では、幼児組の数人が何か相談しながら虫探しに夢中です。シロツメクサの上に寝転がって、流れる雲をのんびりと眺める2人のなんとやわらかな笑顔。向こうの洗い場ではひと遊びした子どもたちがワイワイガヤガヤ泥だらけの足を洗っています。自由でのびやかな子どもたちの姿を見ていると、心の中があたたかいもので満たされていくようです。

開園してから5年間、子どもたちが幸せな時間を過ごす居場所でありたいと願い、話しあいと実践を重ねながら歩んできました。子どもは幼く弱い存在ではあるけれど、大人が子どもを支配や強制するのではなく、子どものありのままを受け止め、子どもと共感しあう世界を大切に保育を選び取っています。大事に受け止められた思い出を子どもたちにもたくさん残してあげたいと思います。

「いつも変わらない」 安心が信頼へ

「ここはあなたのもう一つのおうちのように安心できて、ありのままのあなたを大切にしてくれる場所」であることを、子どもたちに伝え続けています。安心感は、いつもの場所



自然があって、友だちがいる。
それだけで遊びが広がる

大丈夫。 あなたの歩幅で歩こうね

一人の子どもが幼児51名の世界と出会うとき、大人が考える以上の勇氣と忍耐が必要で

やがて変化の楽しさに気づき、友だちが増え、遊びが広がり、挑戦するわくわく感を楽しめるようになっていきます。そして何より、先生たちのいつも変わらない笑顔と穏やかな声、子どもを一人の人間として向きあう姿勢は、人は信じるに足るものであることを伝えていくのだと思います。

「普天間 緑ヶ丘保育園米軍ヘリ落下物事故
元・園職員の視点から」

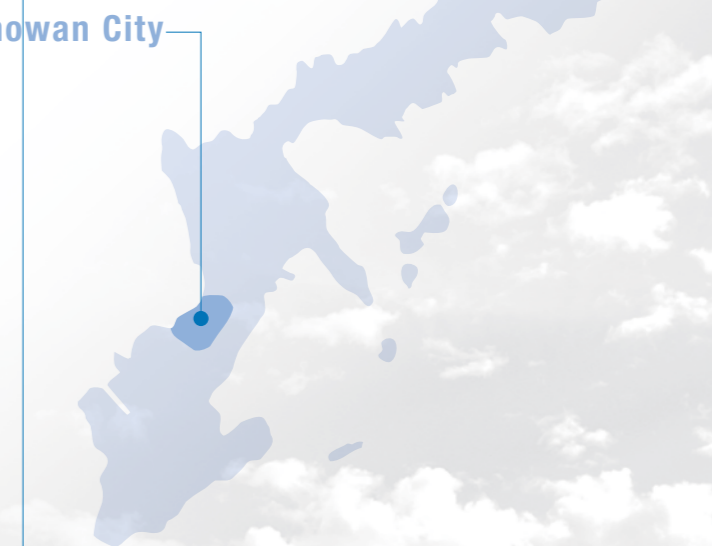
子どものために 安全な空を取り戻す

沖縄県宜野湾市。沖縄戦のさなか、米軍によって接収された土地に滑走路が造られた。住民たちは周辺に居住させられ、普天間基地を囲むように街ができた。基地から300メートルほどの住宅街の一角に、普天間バプテスト教会付属の緑ヶ丘保育園がある。2017年12月7日午前10時、2度の衝撃音が園児たちの頭の上に響き渡った。米軍ヘリからの落下物だった。当時保育園に勤めていた沖縄YWCA会員が見たものは……。



海外メディアを含む記者会見で、子どもの命と空の安全を守ることを訴えた。事故前までは日常生活を送っていたお母さんたちだ(2月14日、日本外国特派員協会・東京)

Ginowan City



1歳児の部屋の真上に 落ちてきた

「米軍機からの落下物あり」との知らせを受け、いつもより早めに職場の緑ヶ丘保育園に向かったのは、午前11時過ぎ。到着するとすでに報道陣が多数園内に入りし、物々しい空気に満ちていました。子どもたちの顔を見たとき、思わず「助かってよかった!」と抱きしめそうになりましたが、まずはこのような状況下、彼らを動揺させまいといつもと変わらない表情で接するよう努めました。

落下物が直撃したのは、私が補助で入っている1歳児クラスの部屋のまさに真上。室内での活動を終えて、さあ、お庭に出ようというまさにその時でした。園庭ではちょうど他のクラスの子どもたち20名ほどが遊んでいました。屋根の上を見ると、落下地点から跳ね返り、屋根の端から50センチほどの所に辛うじて引っかかっている物体を確認。間一髪で子どもたちは助かった! 物体は想像したより大きく、長さ約10センチ、直径7.5センチ、厚さ8ミリ、重さ200グラム超。強化プラスチック製の筒状の物で、それ

なんでお空から 落ちてくるの?

県外の人間にとっては明らかに異常なこと—子どもたちの真上を米軍ヘリやオスプレイが機体のおなかを間近に見せながら頻りに飛んでいる光景—は、う



事故当日の現場検証。この物体が空から落ちてきた。飛行する前に必ず外さなければならぬものだったという

るさかたり危険を感じることはあっても、園児の父母にとっては見慣れた日常風景であったと思います。慣れないと生きていけない、という現実があるからです。怒涛の日々が始まりました。「子どもたちの命を守りたい!」と立ち上がり飛行停止要望の署名を始めた父母会ですが、それを阻止する「自作自演だ」と非難する声、ネトウヨによって拡散されるデマ、保育園に送られてくる脅しや嫌がらせのメール、無言電話……子どもが傷つけられたらどうしようと心折れそうになっただけのお母さんたちの姿がありました。「親が自分の子どもの命を危険にさら

らしてまで自作自演なんてやりませうか!」と怒り、泣いている姿を見ました。賛同の署名は現在14万筆を超え全国から集まりました。2月13日には要請行動として保護者6名、園長、宜野湾市議2名が東京に赴き、政府に署名を提出。海外に向けても記者会見を行いました。

沖縄の不条理に 目覚めた父母たち

米軍は「保育園や学校、病院の上は飛ばない」と約束しています。ですが沖縄防衛局の調査による飛行記録を見ると、緑ヶ丘保育園は米軍機が飛行したルート

を示す何本もの赤い線で塗りつぶされています。保育園だけではありません。事故から6日後にヘリの窓枠が普天間第二小学校に落下しました。この事故は米軍が正式に認めましたが、一方で緑ヶ丘の事故は「米軍ヘリから落下したものではありません」と主張しています。ですから県外のテレビや新聞では、普天間二小に言及することはあっても緑ヶ丘のことは無視されていることが多く、そのことに対して強い怒りを感じます。しかし、私たちは決してこの事故を忘れません。現在、子どもたちの安全な

沖縄YWCA会員 國分美生



保育園の園長や保護者らが上京して、園上空の米軍機飛行禁止などを求める10万を超える署名を政府に提出した(2月13日)

日本YWCA ひろしまを考える旅 2018

本当に知っていますか?
～広島・ヒロシマ・広島～

日本全国の中高校生そして多世代・多文化の参加者と互いに出会い、過去の事実を学び、今を見つめ、未来を考えませんか? あなたと一緒に、「ひろしま」で。

日時: 8月9日(木)~11日(土)
オプションツアー参加の場合12日(日)まで

会場: 広島市文化交流会館

対象/定員: 中学校1年生相当年齢以上でこのプログラムに関心のある方ならどなたでも! 80名

参加費: 中学・高校生 22,000円、
オプション参加 33,000円
大学生・大学院生 25,000円、
オプション参加 36,000円
一般 30,000円、オプション参加40,000円
※留学生対象の参加費補助制度があります

詳細は以下までお問い合わせください。
HP (www.ywca.or.jp) をご覧ください。

問い合わせ・申し込み

公益財団法人 日本YWCA
E mail: office-japan@ywca.or.jp
〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel: 03-3292-6121・Fax: 03-3292-6122

